

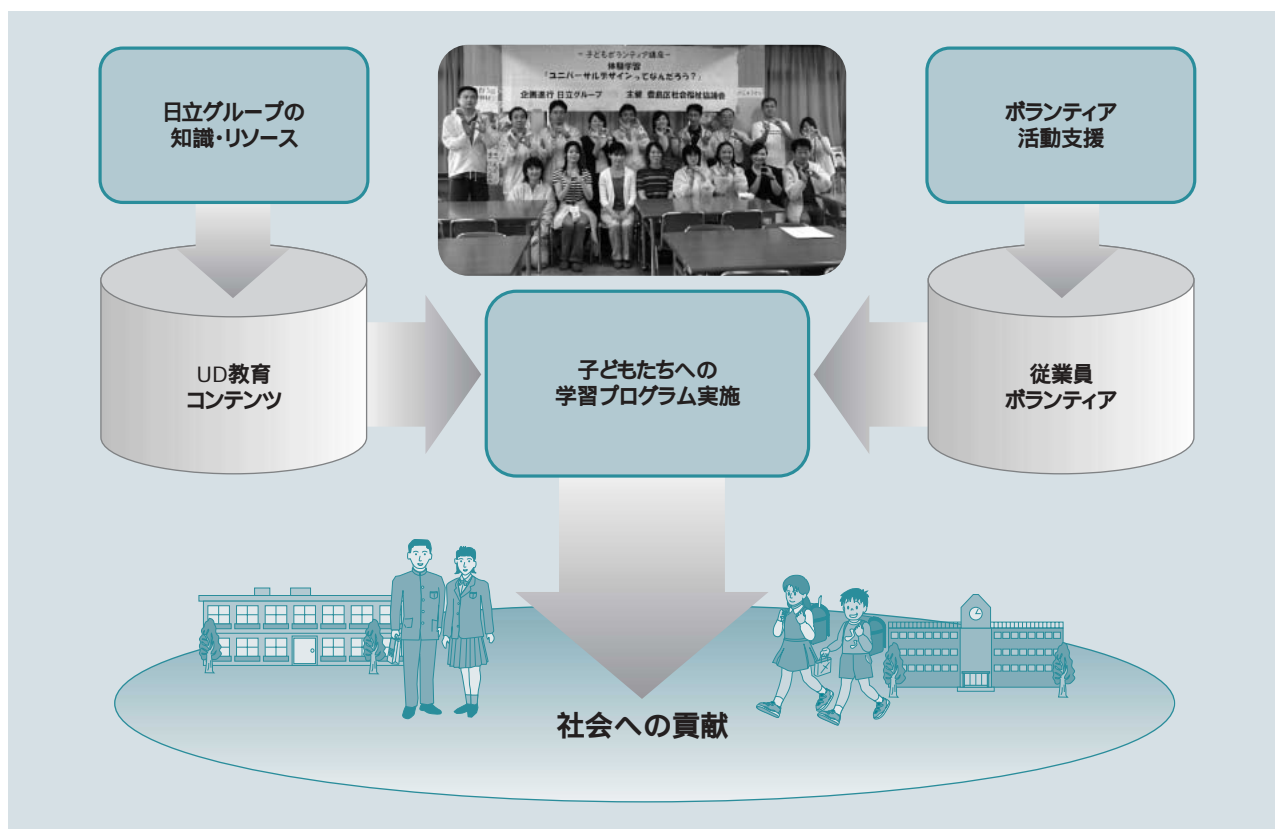
ユニバーサルデザインの社会貢献活動 日立グループ「教育分野への支援プログラム」

Social Contribution Activity by Universal Design

河瀬 俊祐 Shunsuke Kawase

久保田 太栄 Tai Kubota

玉木 英美 Emi Tamaki



注:略語説明 UD(Universal Design)

図1 ユニバーサルデザインを題材とした従業員ボランティアによる社会貢献プログラム

日立グループの従業員ボランティアが、子どもたち自身がユニバーサルデザインを考えていく参加型授業を展開している。

1.はじめに

日立グループは、社会貢献活動にかかわる多様な従業員のボランティア活動支援を行っている。教育分野への支援プログラムとして「ユニバーサルデザイン」を題材にした活動もその一つである。

この活動は、日立グループの持つ知識や技術といったリソースを社会へ還元することと、ボランティア活動を通じて従業員の個の充実を図ることを目的とした教育支援プログラムである。小学校の総合学習などをサポートする講師として派遣された従業員ボランティアが、製品づくりを通じて培ってきたユニバーサルデザインの概念や考え方を教えるものである

(図1参照)。

従来から、日立グループは、社会貢献活動を単なる慈善活動としてではなく、将来の企業価値向上にもつながる重要な企業活動としてとらえ、一貫性をもって積極的に取り組んでいる。また、CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)活動の一環として、グループ各社と財団、従業員のひとりひとりが一体感をもって社会貢献活動に取り組むため、グループ共通の理念と方針を定めている(図2参照)。この理念と方針の下、主に「教育」、「環境」、「福祉」の3分野において、知識と情報技術など、持てる資源を最大限に活用し、次なる時代の変革を担う「人」を育む活動を中心に、生き生きと

日立グループは、従業員のボランティア活動を支援し、教育分野への支援プログラムとして「ユニバーサルデザイン」を題材に活動を行っている。この活動は、日立グループの製品づくりを通じて培ってきたユニバーサルデザインの概念や考え方を、小学校の総合学習などの一部をサポートする講師として派遣された従業員ボランティアが教えるものである。スタッフを養成するシステムづくりや、魅力的なカリキュラムになるように工夫を凝らし、子どもたち自身が「ユニバーサルデザイン」を考えていく参加型授業を展開して、具体的な事例や体験を通して、「人を育む」活動の実現をめざしている。

【理念】
日立グループは、よき企業市民として、社会の要請と信頼に応え、豊かな人間生活とよりよい社会の実現に貢献します。

【方針】
日立グループは、「教育」、「環境」、「福祉」の3分野において、知識と情報技術など、持てる資源を最大限に活用し、次なる時代の変革を担う「人」を育む活動を中心に、生き生きとした社会の実現のため、さまざまな社会貢献活動を推進します。

図2 日立グループ社会貢献活動の理念と方針
日立グループは、従業員ひとりひとりが一体感をもって社会貢献活動に取り組むため、グループ共通の理念と方針を定めている。

した社会の実現のため、さまざまな活動を推進している。

ここでは、日立グループが行っている社会貢献活動の中から、従業員のボランティア活動による教育分野への支援プログラム「ユニバーサルデザイン」の活動について述べる。

2. 具体的活動内容

2.1 プログラムの概要

プログラムの対象者は、基本的には小学生の中学年から高学年とし、「誰もが利用しやすい生活空間や地域社会の姿を考える」、「誰もが暮らしやすい環境にするために、自分たちができることを考える」ことをねらいとしている。

学習内容は、次のとおりであるが、学校や地域の事情に合わせて、アレンジすることも可能なプログラムとしている。

- (1) ユニバーサルデザインの基礎講義
- (2) 子どもたちの生活空間や地域社会のユニバーサルデザインを考えるグループワーク
- (3) 学校近隣在住の障がい者、高齢者などゲストからの話
- (4) ユニバーサルデザインの事例紹介とユ

ユニバーサルデザインに必要なこと

なお、学校側では事前準備として、どのような対象者のどのような状況(モノ)のユニバーサルデザインを考えるかを決定する。対象者には、視覚障がい者、聴覚障がい者、車いす使用者、高齢者、妊婦、幼児同伴者、日本語が得意でない外国人などが想定される。状況(モノ)としては、冷蔵庫・洗濯機・掃除機などの製品を使うことや、トイレ・風呂・階段・自動販売機などを利用すること、料理をすること、バスや電車に乗ることなどが考えられる。従業員ボランティアは、決定されたことをベースにして、その都度カリキュラムを調整している。

2.2 プログラムの流れと役割分担

日立製作所コーポレート・コミュニケーション本部社会貢献部と社内外の専門スタッフ、従業員ボランティアが実施する内容を図3に示す。大きな流れとして、まず、基本カリキュラムを社会貢献部および専門スタッフで作成する。その後、社内イントラネットで、従業員ボランティアの募集を行い、希望する従

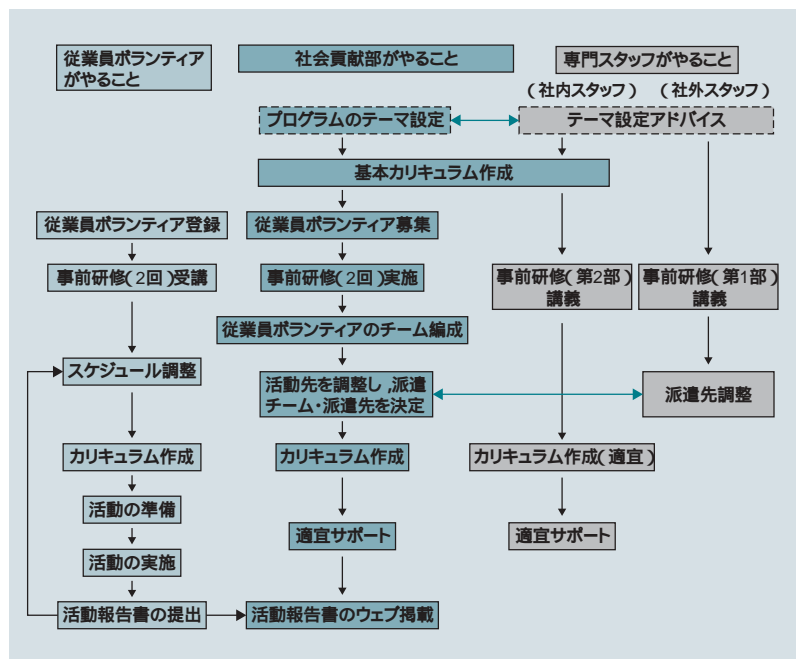


図3 ボランティア、社会貢献部、および専門スタッフの役割分担
プログラムの流れと役割分担を示す。

業員は、ボランティア登録を実施する。なお、登録された従業員ボランティアは、後述する2回の事前研修受講を必須とし、初心者でもスムーズに活動が行えるように工夫している。

その後、社会貢献部において、主に小学校などの活動先を調整・決定したうえで、登録された従業員ボランティアとスケジュールを調整し、参加が可能な者によって活動を実施している。

2.3 従業員ボランティアの事前研修

ボランティア登録した従業員には、社内外の専門スタッフによる事前研修を必須としており、このプログラムに関する基本的な心構え・知識・スキルなどを身に付けることができるようにしている。事前研修は各回とも、平日の退勤後、約2時間程度実施する。

事前研修は、2部構成になっており、第1部のテーマは「子どもたちとの交流における活動の心構え」である。学校教育コーディネーターの「NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク」、および社会人講師による授業をデザインしてプロデュースする「きてきて先生プロジェクト」を招き、地域社会の教育支援の現状に関する講義や、子どもたちに伝える話し方・接し方の実習が行われる。第2部のテーマは「ユニバーサルデザインのカリキュラム」で、講師は日立製作所デザイン本部が務める。その内容は、ユニバーサルデザインに関する基本的知識・考え方、実際にグループワークを行う際のアドバイス、障がい者の特性への理解などの講義である(図4参照)。

2.4 プログラム当日のスケジュール

プログラム当日の基本パターンは、小学校の場合は2時限

分を利用し、児童4～5名から成る各グループに、従業員ボランティアが1～2名参画し、ファシリテーター(進行役)となって進めている(表1、図5参照)。

2.5 事後の活動

授業終了後、1回の活動ごとに、参加したボランティアメンバーの代表者から、活動日、活動場所、メンバー、活動の様子、感想などの活動報告書を提出してもらい、今後の活動の参考としている。

また、子どもたちと参加メンバーが、それぞれ感想やメッセージを書いて郵送で交換するなど、コミュニケーションも図っている。

なお、この活動の様子は、インターネットで公開している²⁾。

3.参加者の声、社外の評価

3.1 参加者の声

実際に訪問した学校の子どもたちからは、「自分の周りにいる人について、より注意深く見るようになった。困っている人がいたら助けたい」、また学校側からは「とても面白いプログラムを提供いただきましてありがとうございました。今まで知らなかった多くのことを勉強できました」などの感想をいただいている。

ゲストの方からも、「自分が住んでいる地域で、自分の経験を話す機会を与えてもらい、たいへん感謝している」などの言葉をいただいた。

スタッフとして参加した従業員ボランティアからは、「小学生だけでなく、自分自身もまた、ユニバーサルデザインについて多くのことを学ばせてもらった」、「もし、このプログラムに参加



図4 事前研修の様子および本番用プログラムスライドの例
事前研修の様子(左)と、プログラムを実施する際に使用するスライドの例(右)を示す。

表1 プログラム当日の基本パターン
プログラムの流れと学習内容を示す。

時間	子どもたちの学習内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●日立グループと従業員ボランティアの紹介 ●ユニバーサルデザインについて 少子高齢化など社会背景やバリアフリーデザインとの違い、日用品など、身近な配慮について学習する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●ゲストの自己紹介とテーマへの問題提起 ゲストの制約に関連する擬似体験などをプログラムやゲームを通して体感する。 ●ユニバーサルデザインを考えるグループワーク グループごとに各テーマについての意見を出し合い、デザインを描き出す。 例:「視覚障がいのある人へも配慮したテレビリモコン」など
	<ul style="list-style-type: none"> ●グループの発表 グループワークで考えたアイデアを発表する。 ●ゲストの話 子どもたちのアイデアに対するコメント、また当事者としての経験や希望についての話を聞く。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●ユニバーサルデザインの事例紹介と必要なこと 洗濯機、テレビリモコン、ホームページ、手話アニメーションソフト、エレベーターなどのユニバーサルデザインの事例を紹介する。 ユニバーサルデザインは特別なものではないことや、思いやりと助け合う心の大切さを考える。

していなかったなら、福祉や日立製品について、深く考えることはなかったと思う」など、活動してよかったという感想が多く寄せられている。

3.2 社外からの評価

この活動は、人づてに評判が広がり、現在では東京都教育庁「地域教育プラットフォーム構想」のモデル地区である世田谷区、杉並区の教育コーディネーターから支持を受け、活動を依頼されている。

また、東京都中野区の中野ボランティアセンター「そよかぜ通信」(12月号)、千代田区のちよだボランティアセンター「ちよだボランティアセンターだより」4月号の「ボランティアレポート」への活動内容掲載をはじめ、東京都教育庁「みんなの生涯学習」からも取材を受けるなど、社外からの評価も広がりを見せつつある。

4 .おわりに

ここでは、日立グループの従業員によるボランティア活動である、教育分野への支援プログラム「ユニバーサルデザイン」の活動について述べた。

本プログラムは、小学校の総合学習などの場を借りて、従業員ボランティアが、独自の教材を制作し、子どもたちの関心を高めるカリキュラムを提供している。また、事前研修などを通じたスタッフを養成するシステムづくりやメーリングリストによる意見交換の場を設けるなど、より魅力的なカリキュラムになるように活動支援の工夫をしている。



図5 グループワークの様子

4～5名のグループに、従業員ボランティアが1～2名参加して進めていく。

この活動は、2005年3月からスタートし、登録ボランティア数は2006年5月末現在で54名、実施場所は東京都内の小学校中心ではあるが、2006年7月現在は9か所で実施し、着実に実績を残してきている。今後はボランティア数を増やすとともに、徐々にその活動範囲を広げていき、継続して、子どもたち自身がユニバーサルデザインを考えていく参加型授業を展開し、具体的な事例と体験を通じて、「人を育む」活動の実現をめざしていきたい。

このプログラムの実施にあたり、協力をいただいた関係各位に深く謝意を表する次第である。

参考文献など

- 1) 日立製作所 社会貢献活動,
<http://www.hitachi.co.jp/Int/skk/>
- 2) 日立製作所 社会貢献活動「教育分野への支援プログラム」,
<http://www.hitachi.co.jp/Int/skk/kyoiku/bunya0101.html>

執筆者紹介



河瀬 俊祐
1989年日立製作所入社、コーポレート・コミュニケーション本部 社会貢献部 所属
現在、日立の社会貢献活動業務に従事



玉木 英美
1996年日立製作所入社、コーポレート・コミュニケーション本部 社会貢献部 所属
現在、日立の社会貢献活動業務に従事



久保田 太栄
1984年日立製作所入社、デザイン本部 ユーザエクスペリエンスリサーチセンタ 所属
現在、日立のユニバーサルデザイン推進業務に従事